

学校名	唐津市立北波多小学校
-----	------------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・どの項目も概ね目標通り達成することができた。 ・学力向上に向けて取り組んだ研究授業を全職員が公開することができたことは大きな成果であったと考える。しかし、前年度の県学習状況調査の正答率を成果指標として検証を行った結果、十分な成果がみられなかった。それ以外については、研究への取組成果が表れてきたところであるため、次年度も児童の問いを活かした授業づくりの取組は続けて取り組んでいきたい。 ・小中1校ずつという連携を行うには恵まれた環境にあるため、全職員が9年間の学びの大切さを意識でき、かつ実践に結び付けることができる内容となる連携の見直しを図りたい。 ・次年度は、校時表の見直し、ペーパーレス化の取組拡大、職員のタイムマネジメント意識向上につながる研修等を行い、業務改善をさらに進めていきたい。
------------------	--

2 学校教育目標	とことん学び とともに高めあう 元気いっぱい北波多っ子 ～笑顔と思いやりがあふれる学校～
----------	--

3 本年度の重点目標	◇豊かな心の育成 ◇確かな学力の育成 ◇健やかな体づくりの育成 ◇安心・安全な学校づくり ◇特別支援教育の充実 ◇地域との連携強化
------------	--

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目								
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○UDの視点を取り入れた授業づくり(学ぶことを楽しみ、主体的に学習に取り組む児童の育成)	○業者テスト(国語・算数)学期末評価B以上の児童80%以上	・指示や板書の方法、授業の形態等を工夫し、学習内容を児童がより深く理解できるようになるための方法について、校内で研究を進め実践する。	A	・業者テスト(国語・算数)の学期末評価B以上の児童は88%であった。 ・全ての教師がUDの視点を取り入れた授業を推進できたと回答した。 ・共通様式を活用した授業づくりについては、9割近くの教師が、共通様式に沿った形で実践できたと回答した。	A	・授業づくりにも共通様式があることを初めて知った。UDの視点や共通様式を活用してさらに授業づくりを深めていってほしい。	学習部・学力向上担当
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○集団の中で積極的に活動したり協力したりできた児童85%以上 ○進んであいさつをすることができたと肯定的な回答をした児童80%以上	・縦割り班での遊びを通して、異学年交流に取り組む。 ・人権教室「かがやきタイム」の充実を図り、「仲間づくり」に視点を置いた取り組みを実践する。 ・委員会やボランティアの児童と共に、朝のあいさつ運動を推進する。	A	・集団の中で積極的に活動して協力すること、進んであいさつをすることについて、どちらも約9割の児童が肯定的な回答をした。 ・縦割り活動での異学年交流で、お互いを思いやる心を育てることができた。 ・人権教室や各学級での人権学習により、人権尊重の意識を高めることができた。	A	・行事や授業の参観に行くと、児童の方から挨拶をしたり、話しかけてくれることが多い。 ・楽しみながら活動しており、お互いの信頼関係ができていると感じている。	学習部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「困ったことがあれば、先生や保護者に相談できる」と肯定的な回答をした児童80%以上	・Q-Uアンケートや毎月の「心のアンケート」の結果を週1回の連絡会で情報共有を行うとともに学級経営に生かす。 ・いじめ防止対策委員会を中心にいじめ防止対策を行う。年2回の拡大委員会を開き、情報共有と適切な対応を行う。	A	・困った時に先生や保護者に相談できると答えた児童の割合は8割を超えた。また、保護者の学校に対する相談対応への肯定的な回答は9割を超えている。 ・全ての職員が、Q-Uアンケート等の結果やいじめアンケートの結果を活かし、指導の工夫を行うことができた。 いじめの早期発見、早期対応についてはほぼ対応できているが、発生した問題事案の解決に長い期間を要するものがいくつかあることが課題である。	A	・いじめアンケートの結果から3カ月をめどに解消したかどうか、再び協議されていることが分かった。長いスパンで友達関係について見守っていただいていることがわかる。引き続き根気強く取り組んでほしい。	特活部 生活部
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・キャリア教育に関わる諸活動について、キャリアパスポートを系統的に位置づけ、自身の変容や成長を自己評価させる。 ・郷土について学ぶ体験活動をカリキュラムに位置付ける。	A	・先生がよいところを認めてくれていると回答した児童は9割を超えた。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童は約85%であった。キャリア教育の取組については、約85%の教師が積極的な取組を行っているが、取組の頻度や内容には課題があるため、さらに外部講師やPTAの力も借りながら推進したい。	A	・児童の成長のために熱心に取り組んでいたことが分かる。感情が高ぶり、体罰等だけはないように気をつけていただきたい。	教務部
	○人権・同和教育の推進 ○心のアンケートの推進	○「児童生徒を対象にした人権学習」の実施率90%以上 ○「学校では楽しく生活をすることができますか。」と回答した児童90%以上	・児童生徒支援教員を中心に、人権学習の授業プランを提案、実行する。 ・日常生活において、安心して過ごすことのできる集団づくりと教職員との良好な関係づくりを行う。	A	・児童生徒支援教員を中心に、各学年で人権学習に取り組むことができた。 ・「楽しく生活をすることができている」と回答した児童は9割を超えている。約1割の児童も含め、全ての児童が安心して過ごすことができるような集団・関係づくりを目指す。	A	・おおむね楽しく過ごしている児童が多いが、記述されているように1割の児童に目配りしていくことの大切さを感じる。支持的な集団づくりが大切だと思うので、学級づくりを大切にしたい。	学習部 生活部
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童生徒90%以上	・各学期において、食に関する指導を全クラスで行い、児童の食に対する意識を高める。	A	・「健康に食事が大切である」と考える児童は9割を超えている。 ・給食や各教科において、全ての学年で食に関する意識を高める取組を行うことができた。	A	・給食費の値上げや摂取カロリーを下げる等ないように給食でしっかり栄養を取ってもらいたい。	保体部
	●「望ましい生活習慣の育成」	○朝の健康観察を100%にする。 ○「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣を身に付けることができている児童90%以上	・家庭と連携して、健康維持の意識向上に取り組む。 ・換気、手洗い、消毒、密の回避など感染対策も引き続き行う。	B	・今年度も朝の健康観察は100%実施できた。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣を身に付けることができている児童は、9割に満たなかった。特に、毎日朝食を摂っていない児童の様子が報告されることもあり、児童の意識向上と保護者への働きかけが課題である。	B	・朝ご飯を食べている児童も、朝ご飯で食べている物の内容が気にかかる。食事を出す親も子どもの時の食習慣をそのまま引き継いでいるので、学校でも食育指導を行ってほしい。	保体部

